

地域住民意見交換会

～未来ビジョンを共に考える～

VOL.7

25/09/29

館林駅東エリアプラットフォームでは、エリアの将来像を話し合い、まちづくりの方向性を示す「未来ビジョン」の策定を目指す取組を進めています。この取組の一環として、2025年9月29日（月）に意見交換会を開催し、20代から90代までの40名を超える地域の方々にご参加いただきました。前半は、エリアプラットフォームの設立経緯や、これまで歴史の小径周辺で活動してきた団体の取組紹介が行われ、後半は、グループに分かれて意見交換とグループ意見の発表が行われました。

意見交換会の目的

歴史の小径エリアの将来像を地域の方々と一緒に考え、エリアプラットフォームの未来ビジョンに反映させること

意見交換会概要、出たアイデア・意見

- ① 歴史的な街並み景観創出によって得られる効果と、景観創出のための方法等について
 - ◎ 地域の方の街への愛着形成
 - ◎ 歴史的街並み景観の保存意識が次世代へと繋がる
 - ◆ 織物などを利用したサインの設置（特に紺屋町周辺）
 - ◆ 黒塀の設置、夜間の照明の設置から優先的に行う（昼間の景観統一はすぐには難しい）
 - ◆ 旧町名に戻す
 - ◆ 車の流入を抑え、人が安心して歩ける道にする
 - ◆ 看板アートでの景観創出（時期の花や、当時の景観の看板作成）
 - ◆ 景観創出に対し、住民に理解と共感をしてもらう
- ② 歴史の小径エリアの中で、『利活用できそう』と思う場所と、その活用方法等について
 - ◎ 紺屋町公園（長屋門）：キッチンカーや露店を誘致し、夜市や朝市を開催する
 - ◎ 駅前周辺のフェンスなど：板を貼り、黒塀にする（玄関口である駅前の景観を黒塀で統一）
 - ◎ 旧館林二業見番組合事務所や外池商店：宿泊・飲食施設（肴町の全体を思い切って活用）
 - ◎ 各店舗：店舗を所有する方々と交渉し、空きスペースを借り上げて活用する
 - ◎ 歴史の小径：季節ごとに植栽を整備
 - ◆ 空き家の情報が少ない、地権者を集めて相談会
 - ◆ 歴史的な建物は個性でもあるのでなるべく活かしていく
 - ◆ 歴史の小径エリアで定期的に歩行者天国を設ける

活動団体の取組紹介

歴史の小径では、これまでに様々な市民団体による活動が行われており、館林駅東エリアプラットフォームの会員である2団体から、これまでの活動内容について紹介がありました。株式会社まち研からは、「まちなか散策ガイド」や「黒塀の設置」など、まちづくりを考える研究グループ（通称：まち研）の主な活動について紹介がありました。また、合同会社三手家守舎からは、約10年前に実施された「館林Re-project」および、その取組を通じたまちづくりの方法や景観形成について紹介がありました。



株式会社まち研▲
合同会社三手家守舎▶



沿線住民の方の事前の意見

- ・ 高齢者ばかりとなってしまった、それでも来た人を出迎えるなどは可能。地域の人々がやらなくてははいけない。
- ・ 歴史の小径はとても大切な場所と感じている。長屋門が移転したときはとても嬉しかった。
- ・ 昔は歴史の小径の景観は凄かった。板塀がずらっと並んでいるのは印象的だった。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました！
意見を館林駅東エリアプラットフォームで整理し、未来ビジョンの策定に繋げていきたいと思いをします。